



## 令和4年度 第1回 総合高齢社会対策推進協議会

# 総合高齢社会対策の取り組みについて

令和4年7月27日 保健福祉部 総合高齢社会対策推進室



## 総合高齢社会対策プロジェクトの趣旨

- 豊島区は一人暮らし高齢者割合が全国一高い
- 一人暮らしは「社会的孤立」を生みやすく、社会的孤立は不健康や消費者被害、生活の質の低下などにつながる
- このため、高齢化への対応がより困難であることから、全国に先駆けた一歩踏み込んだ対応が必要



高齢社会において、だれもが、意欲・能力をいかして活躍でき、安心して暮らし続けることのできるまちづくりを実現するため、地域や関係機関とともに先駆的な取り組みを進めていきます。

住み慣れた地域で自立して生活できるよう様々な在宅福祉サービスの充実と合わせて日常生活支援体制の整備をしていきます。

【豊島区基本計画より抜粋】

社会的孤立ゼロ

## 誰一人取り残さないまちづくり

### ◆ ひきこもり支援事業

深刻な「8050問題」など、ひきこもり状態の方を支援するため、専門家や当事者等で構成する「(仮)ひきこもり支援協議会」を設置するなど、相談支援体制を強化しています。

- ・令和3年7月ひきこもり相談窓口開設  
→R4.3月末時点で**79件**の新規受付
- ・ひきこもり支援協議会（3回）およびひきこもり支援ネットワーク（2回）を開催し、さまざまな機関との連携を強化。
- ・「豊島区ひきこもり情報サイト」を開設。

さらに、令和4年度は専門的な知識を有する「生きづらさ支援員」を新たに配置し、より個人に適した支援を行えるようにします。

### ◆ 高齢者呼びかけ事業

75歳以上のすべての高齢者の皆さんにリーフレット等を送付し、コロナ対策等の啓発を行うとともに、お困りごとを気軽に返信・相談できる取り組みを進めています。令和3年度は高齢者実態調査と併せて実施し調査票等を送付しました。

令和3年9月 30,956人に発送 ⇒ 約**6,700人**から返信  
※高齢者呼びかけ事業と高齢者実態調査の合計

R3  
新規

R4  
拡充

### ◆ 暮らし・しごと相談支援センターの充実

令和3年度は、コロナ禍で需要が急増している「住居確保給付金」の事務体制を強化するとともに、住宅に関する相談について部局間の連携を強化するなど、さらにワンストップの対応を進めました。

住居確保給付金 件数 **779件**

R3  
拡充

### ◆ 民生委員・児童委員の欠員ゼロへ

「誰一人取り残さないまちづくり」の要となる民生委員・児童委員の欠員ゼロに向けて鋭意取り組みます。

令和元年12月現在 欠員**41名** ⇒  
令和4年5月末現在 欠員**28名**

▶ 民生委員・児童委員の活動  
(高齢者サロン)



### ◆ 出張相談・見守り強化事業

「高齢者呼びかけ事業」で相談・見守りが必要になった方などに対し、高齢者総合相談センター職員が、区民ひろばへの出張相談や高齢者への自宅訪問相談を行うなど、高齢者の見守り体制を強化しています。

令和3年度 区民ひろば出張相談回数 **386回**

R3  
新規

100歳健康

# フレイル対策の推進

## ◆ フレイル対策センター開設

全国初

要介護状態一步手前の「フレイル（虚弱）」を予防する拠点として、令和元年5月に「東池袋フレイル対策センター」を開設し、多くの皆さんに利用されています。「運動機能分析装置」などのフレイル対策機器を22か所の 区民ひろばに設置し、身近な地域でフレイル予防に取り組める環境を整備していきます。

令和3年度来館者数 12,905人

▼運動機能分析装置で  
下半身の筋力を測定している様子



▲輪になって「としまる体操」

## ◆ フレイルチェック

東京大学高齢社会総合研究機構・飯島勝矢教授が開発した「フレイルチェック」をフレイル対策センターや区民ひろばで定期開催し、高齢者自らの「気づき」を促します。

## ◆ フレイル予防でいきいき100歳

R4  
拡充

例年実施する介護予防大作戦前後を、『介護予防・日常生活支援総合事業ウィーク』としてグレードアップさせた介護予防講座、認知症講座、総合事業のイベントを実施し、フレイル予防日本一のまちづくりを展開します。

90周年  
記念事業

【開催予定イベント】

- ・介護予防大作戦
- ・つながるサロンと区内史跡をめぐるウォークラリー
- ・「高齢者向けのスマートフォン講座」
- ・目指せ『としまる体操』10,000回チャレンジ



▲フレイル予防でいきいき100歳

## ◆ ヘルスケアアプリ実証実験

東京都・KDDIとの連携により進めているスマートフォンを活用した健康増進の実証実験を2年間行ない、個人の状況に合った効果的な予防対策等について検証を行ないました。

実証実験参加者数（令和3年度）1,194人

一人暮らしでも安心

## いざという時の安心

### ◆ 夜間緊急受付と休日窓口の開設

R3  
新規

これまで対応が困難であった夜間・休日の緊急対応に応じられるよう、高齢者の総合相談に関する「夜間緊急受付」及び「休日窓口」を開設するなど、24時間365日の相談体制を構築しました。



### ◆ 救急医療情報キット配付事業

R3  
新規

本人の医療情報や緊急連絡先等を記載して冷蔵庫に保管できる「救急医療情報キット」を高齢者の皆さんに配付しました。

### ◆ 高齢者住宅火災代理通報

R4  
拡充

火災時に代理通報する火災安全システムに、協力者を置かなければならない「消防直接型」に加え、令和3年度からは協力者が不要な「民間代理型」を追加しています。

### ◆ 終活サポート事業

社会福祉協議会内に「終活あんしんセンター」を開設し、終活に関するさまざまな相談に応じるほか、区内葬祭事業者等と連携し、葬儀・遺品整理等に関する生前契約を支援しています。

令和3年度 相談件数 延898件



### ◆ 認知症サポーター養成講座

認知症を正しく理解し、認知症の方やそのご家族にやさしく対応できる「認知症サポーター」を積極的に養成しています。

平成27年3月現在 累計4,569名  
⇒ 令和4年3月末現在 累計15,619名

### ◆ 認知症カフェ

認知症の方とご家族、ご近所、専門職等の交流、情報交換の場として「認知症カフェ」の運営を支援しています。

平成28年3月現在 1か所 ⇒ 令和4年3月現在 19か所